

平成27年度中山間地用栽培管理ビークルに関する現地検討会

島根県における 中山間水田作の現状と課題

島根県農業技術センター

栽培研究部作物科

月森

ひろむ

弘



出雲大社が
あります



島根県は耕地の8割近くが中山間地域に



中山間地の水田の例



益田市下波田町

中山間地では不整形な水田も多い

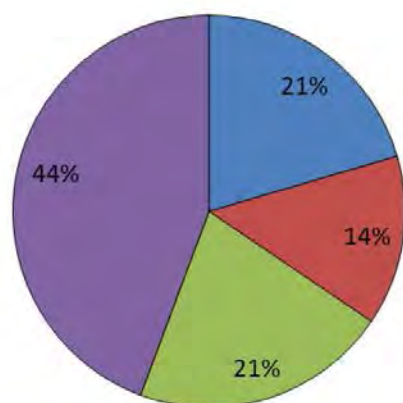


雲南市大東町

5

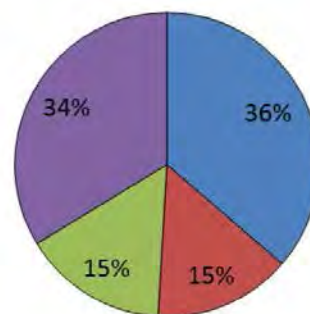
年齢別農業就業人口

島根県



全国

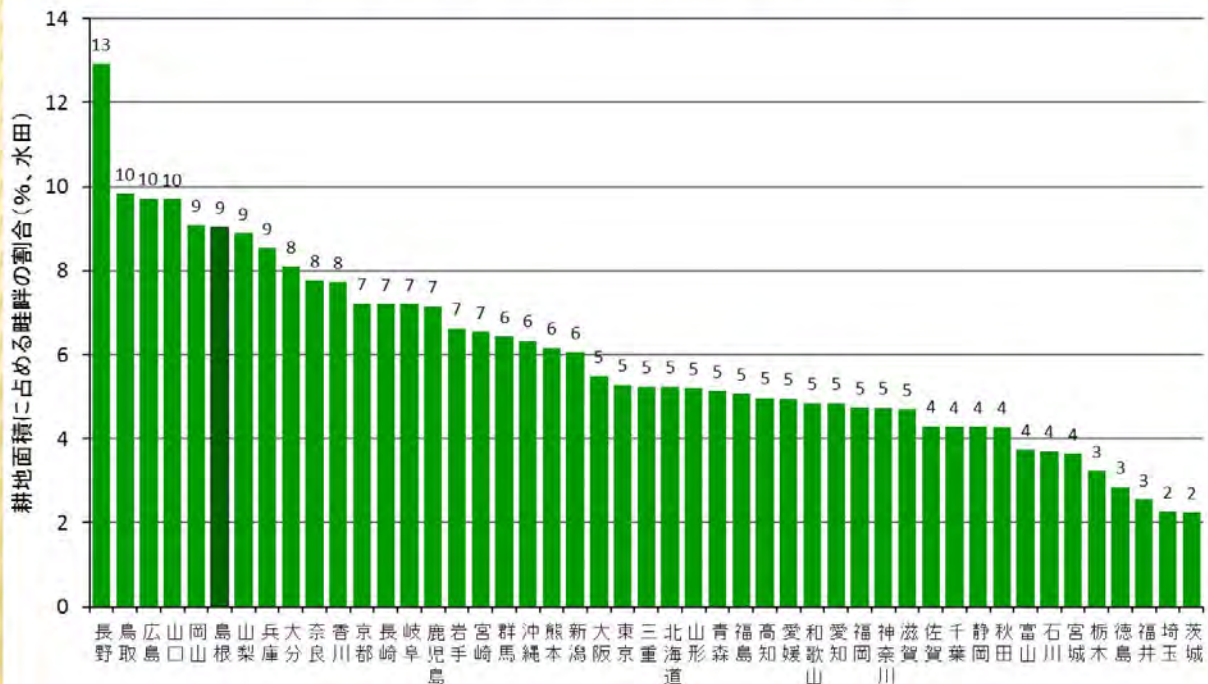
■ 65歳未満 ■ 65～69歳 ■ 70～74歳 ■ 75歳以上



注) 平成26年農業構造動態調査による(販売農家・自営農業に主として従事した世帯員数、農林水産省)

6

耕地面積に占める畦畔の割合



注) 平成26年耕地面積統計による (農林水産省)

7

中山間地農業の現状

➤ 農業の担い手は高齢化

農業従事者の主体は65歳以上の高齢者

平坦地域をふくめると487の集落営農組織が結成され、約7,000haの農地が集積されている (平成27年2月1日現在、農林水産省中国四国農政局松江地域センター公表)。

➤ 小規模、不整形ほ場が多い

大型作業機の導入が難しく、作業効率が悪い

➤ 湿田が多い

排水不良な水田が多く、作業効率が悪い

➤ 畦畔の面積が多い

規模拡大を抑制する要因として畦畔の草刈作業が挙げられる

8

開発中の中山間地用管理ビークルによる作業



田植え



溝切り



薬剤散布

期待される

中山間地用栽培管理ビークルの導入効果

➤ 乗用型機械による管理作業体系の確立

農業従事者の高齢化に対応し、ほ場内はほとんどが乗用型機械による管理が可能となる

耕起→代かき→移植(除草剤同時散布)→作溝→防除・穂肥施用→刈取り

➤ 機械導入コストの低減

管理ビークルにアタッチメントを付けることで複数の作業ができるので、専用機購入よりコストを下げるができる

➤ 排水対策が徹底でき、秋作業が計画的に進めやすい

作溝作業は重労働であり、乗用型管理機による軽労働化は作溝作業の確実な実施につながる

島根県における 中山間地農業の今後の課題

➤ 担い手の確保

集落営農組織の人員や認定農家の高齢化
新規就農、退職後の就農、U I ターン等幅広く育成、確保

➤ 畦畔管理の省力化

農地維持上の大きな問題となっている
この課題の解決が重要

➤ 高価値製品の生産

担い手確保が容易となる価格帯の产品生产が必要

11

ご静聴ありがとうございました



12